

一学校教育目標一

よく学び 心豊かで

たくましい上間っ子

- (1) よく考え進んで学ぶ子
- (2) 明るく思いやりのある子
- (3) ねばり強くたくましい子

学校便り

第11号

# 上間っ子

R5年6月19日(月)

那覇市立

上間小学校

発行責任者

校長 宮里 寧

TEL 917-3327

## 平和学習・集会



沖縄戦から78年がたちました。住民を巻き込んだ激しい地上戦の末、20万人以上が亡くなりました。沖縄県民の4人に1人が命を落としました。

過酷な歴史が刻まれた沖縄の今を生きる私たち。なぜ沖縄で戦争があったのか、どうしてこれほど多くの人が命を落としたのか。今年も慰霊の日がやってきます。6月23日は沖縄戦でなくなった人をいたむ日です。

本校は6月1日(木)から平和旬間です。2階通路には、「沖縄戦のパネル展」、図書館内では「沖縄戦に関する図書」や「慰霊の日に向けてのコーナー」があります。戦争と平和を考える、自分のこととして考えてみる機会を設けてます。その取組の一貫で、本日6月19日(月)、2校時に体育館で、

平和学習・集会が行われました。

講師に「渡口眞常(とぐち まさつね)」さんをお招きしました。渡口さんは、現在、対馬丸記念会副理事長です。

渡口さん自身、兄二人を対馬丸で亡くされました。「対馬丸を通して平和と戦争について考えよう」という題でお話をされました。

まず対馬丸沈没事件について、説明がありました。昭和19年、1944年8月22日、学童疎開船・対馬丸という船に乗って沖縄から逃れるために1800名が九州を目指していました。しかし、航路の途中でアメリカ軍の潜水艦ボーフィン号に攻撃され1484名が亡くなりました。そのうち学童は800名。生き残った学童はわずか50余名でした。

渡口さんは、対馬丸沈没事件を通して「平和のすばらしさ」を伝えてました。上間っ子に「お友だち同士が仲良く遊べる状態、それが平和なんだよ」ということをお話ししていました。また、「戦争は、当たり前の日常を破壊するものです。だから戦争は怖いもので、当たり前の日常が送れていることがすばらしいことです。」そして、「対馬丸沈没事件は犠牲者の半分がみなさんと同じ子どもでした。みんなには、この事件を後世に伝え平和について考えてもらい、平和だけでなく自分の将来や夢についても考えてもらいたいです。」とメッセージを送りました。

最後に、上間小学校を代表して6年生の「屋良こはる」さんが、渡口さんに感謝の言葉を述べ、「伊集 咲歩」さんがお礼の花束を贈呈しました。そして、みんなで「いのちのリレー」を合唱しました。